

## からし種ほどの信仰

マタイによる福音書一七章14〜21節

もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山に向かつて、「ここから、あそこに移れ」と言えば、移るだろう。(20)

イエスたちが山から下りると、ある人が自分の息子の病気を治してほしいとイエスに頼みました。悪霊に取りつかれ、発作を起こして苦しんでいました。父親は最初、弟子たちのもとに来て頼んだのですが、彼らは治すことができませんでした。イエスは弟子たちの不信仰を嘆かれました。彼らはイエスから悪霊を追出す権威を与えられていたのですが、それを用いる信仰がなかったのです。イエスはその息子を癒やされた後、彼らがもし、からし種一粒ほどの信仰を持っていたなら、それが出来たはずだと言われました。からし種は最も小さいものを表す言葉です。それゆえ、信仰は大きさや量の問題ではなく、質が問題だということです。信仰は本気で神を信頼するか、しないかなのです。自分の信じる力を当てるのではなく、神に対する心からの信頼を保ち続けたいものです。